職業実践専門課程等の基本情報について

学校名									所在地			
大阪工業技術専	専門学校 昭和51年10月1日 校 長 福田益和 〒 530-0043 (住所) 大阪府大阪市北区天満1-8-24 (電話) 06-6352-0091											
設置者名		(電話) 06-6352-0091 設立認可年月日 代表者名					所在地					
学校法人福田	〒 530-0043 学園 昭和40年3月31日 理事長 福田益和 (住所) 大阪府大阪市北区天満1-9-											
							(電話) 0	06-6352-0093				
分野		認定課程名			認定学科名			士認定年度	高度専門士認	定年度		門課程認定年度
工業		業専門課程			主 築設計学和			22(2010)年度	-			6(2014)年度
学科の目的									企画・提案力、マネジ て社会が要求する「記			
学科の特徴(取得 可能な資格 等)	建築業界一築配管)』、	で就く職種等 . また『建築科	に応じて必 責算士補』	必要となる『建 や『インテリア	建築士(1級・2 アコーディネ−	2級)』をはじ ―タ―』・『福	め、『各施工作 祉住環境コー	管理技士(建築・電気 -ディネーター』等の資	工事・土木・管工事・ 資格取得を目指す。	告園・建設村	機械)』や『各技	能士(建築大工・建
修業年限	昼夜	全課程の修	多了に必要 単位	な総授業時数 立数	数又は総	講家	É	演習	実習	身	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	1,792 単	単位時間単位	1,024	単位時間単位	O 単位時間 単位	1,216 単位時間 単位	(D 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒到	€員(A)	留学生	数(生徒実員の内	内数)(B)	留学生割	合(B/A)	中退率				
60 人	45	人		15	人	33	%	0 %				
	■卒業者		- :		33		<u> </u>					
	■就職者	望者数(D) 数(E)	:		30 29							
	■地元就	職者数(F)			17		人					
	■就職率 ■就職者	(E/D) に占める地:	元就職者の)割合 (F/F)	97		%					
					59		%					
	■卒業者(こ占める就職	職者の割合	(E/C)	88		%					
就職等の状況	■進学者				3		人					
カソレキョダ・マン 1人 パレ	■その他											
	1人											
		_										
	(令和 ■ ナ か計	5 職先、業界		に関する令和	日6年5月1	日時点の情報	{)					
	■エな机 (令和5年度		₹									
			事務所、	\ ウスメーカ	」一、工務店	5、他						
								,				
	■民間の	評価機関等						無				
第三者による 学校評価	■民間の	評価機関等・、例えば以下							7年公里な根書した			
第三者による 学校評価	■民間の ※有の場合					受審年月:			P価結果を掲載した SームページURL			
学校評価 当該学科の	■民間の ※有の場合	、例えば以下				受審年月:						
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合	、例えば以下 評価団体:	について任		u	受審年月:						
学校評価 当該学科の	■民間の ※有の場合 https://	: 例えば以下 評価団体: www.oct.ac	について任	意記載	u	受審年月:						
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://	Mえば以下 評価団体: www.oct.ac	について任 .jp/course 算定)	意記載	u	受審年月:						
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac な時間による 総授業時数	について任 .jp/course 算定)	意記載 e/archi-recu							0 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac な時間による 総授業時数	について任 .jp/course 算定) うち企業等	意記載 e/archi-recu sと連携したs	実験・実習・	・実技の授業	時数			384	4 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac z時間による 総授業時数	について任 :jp/course 算定) うち企業等 うち企業等	意記載 e/archi-recu sと連携した3 sと連携した3	実験・実習・	・実技の授業	時数			384	4 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac z時間による 総授業時数	について任 .jp/course 算定) うち企業等	意記載 e/archi-recu sと連携した5 sと連携した2 業時数	実験・実習・ 演習の授業時	・実技の授業 寺数		部 力		384 (960	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac z時間による 総授業時数	について任 :jp/course 算定) うち企業等 うち企業等	意記載 e/archi-recu sと連携した5 sと連携した2 業時数	実験・実習・ 演習の授業時	・実技の授業 寺数	時数 実習・実技 <i>の</i> の	部 力		384 (960	4 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac z時間による 総授業時数	i.jp/course 算定) うち企業等 うち企業等 うち必修授	意記載 e/archi-recu sと連携した5 sと連携した2 業時数	実験・実習・ 演習の授業的 と連携した必	・実技の授業 寺数 必修の実験・	実習・実技の	部 力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac z時間による 総授業時数	i.jp/course 算定) うち企業等 うち企業等 うち必修授	意記載 e/archi-recu sと連携したる と連携したる 業時数 うち企業等と	実験・実習・演習の授業的	・実技の授業 特数 必修の実験・ 必修の演習の	実習・実技 <i>の</i> 授業時数	部 力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等をと実施状した決	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac z時間による 総授業時数	r.jp/course 算定) うち企業等 うち必修授	意記載 *** *** *** *** *** *** *** *** *** **	実験・実習・演習の授業的	・実技の授業 特数 必修の実験・ 必修の演習の	実習・実技 <i>の</i> 授業時数	部 力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac z時間による 総授業時数	r.jp/course 算定) うち企業等 うち必修授	意記載 *** *** *** *** *** *** *** *** *** **	実験・実習・演習の授業的	・実技の授業 特数 必修の実験・ 必修の演習の	実習・実技 <i>の</i> 授業時数	部 力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac z時間による 総授業時数	r.jp/course 算定) うち企業等 うち必修授	意記載 *** *** *** *** *** *** *** *** *** **	実験・実習・演習の授業的	・実技の授業 特数 必修の実験・ 必修の演習の	実習・実技 <i>の</i> 授業時数	部 力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac な時間による 総授業時数 が 数による算 総単位数	について任 jp/course 算定) うち企業等 うち企業等 うち企を終援 (うち企業	意記載 *** *** *** *** *** *** *** *** *** **	実験・実習 演習の授業的 と連携した必 と連携した必 たインターン	・実技の授業 特数 必修の実験・ 必修の演習の シシップの授	実習・実技の 授業時数 (業時数)	部 力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac z時間による 総授業時数 が数による算 総単位数	i.jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp	意記載 a/archi-rect b/と連携した3 実時数 うち企業等 うち企業等 うち企業等 等と連携した	実験・実習の授業師と連携した必と連携した必とたインターン	・実技の授業時数 必修の実験・ 必修の演習の シシップの授	実習・実技の 授業時数 (業時数)	部 力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac な時間による 総授業時数 が数による算 総単位数	i.jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp/course (jp	意記載 a/archi-recu b/と連携した 実時数 うち企業等 うち企業等 うち企業等 は は と連携した まと連携した まと連携した まと連携した まと連携した まと連携した まと連携した まと まと まと まと まと まと まと まと まと ま	実験・実習の授業師と連携した必と連携した必とたインターン	・実技の授業時数 必修の実験・ 必修の演習の シシップの授	実習・実技の 授業時数 (業時数)	部 力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac な時間による 総授業時数 が数による算 総単位数	について任 .jp/course 算定) うち企業等等 ううち企業等等 定) うち企業等等	意記載 **/archi-rect **/	実験・実習の授業師と連携した必と連携した必と とを連携した必たインターン 大インターン 実験・実習の単位数	・実技の授業 ・実技の授業 ・必修の実験・ 必修の演習の シシップの授 ・実技の単位 数	実習・実技の 授業時数 (業時数)	許力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac な時間による 総授業時数 が数による算 総単位数	について任 .jp/course 算定) うち企業等等 ううち企業等等 定) うち企業等等	意記載 a/archi-rect b/と連携した 実時数 うち企業等 うち企業等 うち企業等 と連携した なと連携した ない ない ない ない ない ない ない ない ない な	実験・実習の授業師と連携した必と連携した必とたインターン 実験・実習の単位数	・実技の授業 ・実技の授業 ・必修の実験・ 必修の演習の シシップの授 ・実技の単位 数	実習・実技の 授業時数 業時数) 数 数	許力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac な時間による 総授業時数 が数による算 総単位数	について任 .jp/course 算定) うち企業等等 ううち企業等等 (うち企業等 定) うち企業等等 方ち企業等等	意記載 a/archi-rect b/と連携した 実時数 うち企業等 うち企業等 うち企業等 と連携した なと連携した ない ない ない ない ない ない ない ない ない な	実験・実習・実習の授業師とと連携した必とと連携したがなーン 実験・実習の単位数 と連携したがた と 連携した を と ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・実技の授業 特数 必修の実験・ 必修の演習の授 ・実技の単位 な 必修の実験・ の な 必修の実験・ な	実習・実技の 授業時数 業時数) 数 数 実習・実技の	許力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac な時間による 総授業時数 が数による算 総単位数	について任 .jp/course 算定) うち企業等等 ううち企業等等 (うち企業等 定) うち企業等等 方ち企業等等	意記載 *** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	実験・実習・実習の授業師とと連携した必とと連携したがなーン 実験・実習の単位数 と連携したがた と 連携した を と ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・実技の授業 特数 必修の実験・ 必修の演習の授 ・実技の単位 な 必修の実験・ の な 必修の実験・ な	実習・実技の 授業時数 業時数) 数 数 実習・実技の	許力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 評価団体: www.oct.ac な時間による 総授業時数 が数による算 総単位数	について任 .jp/course 算定) うち企業等等 ううち企業等等 (うち企業等 定) うち企業等等 方ち企業等等	意記載 *** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	実験・実習・実習の授業師とと連携した必とと連携したがなーン 実験・実習の単位数 と連携したがた と 連携した を と ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・実技の授業 特数 必修の実験・ 必修の演習の授 ・実技の単位 な 必修の実験・ の な 必修の実験・ な	実習・実技の 授業時数 業時数) 数 数 実習・実技の	許力		384 (960 384	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えば以下 www.octac な時間による 総授業時数 が数による の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	について任 :.jp/course () (意記載 *** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	実験・実習・実習の授業師と連携した必と連携した必とと連携したの一ン 大人	・実技の授業時数 ②修の実験・ ②修の実験・ ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実はの単位 ・実践のの演習の単 にお専門を当該専門をはないで課	実習・実技の 授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技の 単位数 (位数)	許力	- A~−ÿURL	388	4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	■民間の ※有の場合 https://	、例えばいい。 一数総単単な を当業となる のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のものでは、 のもの	index	意記載 a/archi-recu b/archi-recu b/archi-r	実験・実習・実習の授業師と連携した必と連携した必とと連携したの一ン 大人	・実技の授業時数 ②修の実験・ ②修の実験・ ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実はの単位 ・実践のの演習の単 にお専門を当該専門をはないで課	実習・実技の 授業時数 業時数) 数 実習・実技の 単位数 (専修学校	D/授業時数 D単位数	ボールページURL	384 (966 384 (4 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位位単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等と連携を実施状かに記入)	■民間の ※有の場合 https://	、例えばいい。 一般を受ける。 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないで	について任 .jp/course 算定) うちな企業業等技 (うちな企業等等技 (うちな企業等等技 (うちな企業を企業を発 (うちな企業を発 (うちな企業を必 () () () () () () () () () () () () () (意記載 a/archi-recu b/archi-recu b/archi-r	実験・実習・実習の授業師と連携した必と連携した必とと連携したの一ン 大人	・実技の授業時数 ②修の実験・ ②修の実験・ ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実はの単位 ・実践のの演習の単 にお専門を当該専門をはないで課	実習・実技の 授業時数) 業時数) 数 実習・実技の 単位数 (専修学校	→ → → → → → → → → →	(第1号)(第2号)	384	4 単位時間 0 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 1 人	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携を表した況 (A、に記入) に記入)	■民間の ※有の場合 https://	、例えば体: www.oct.ac z時間に業時数 な数単した単位数 のは、学者を必要となる のは、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	について任 s.jp/course 算定) うちかを企業等 等等等が (うちな必修を企業等等単単 であるの数と者である。 (うちな必修を発きるである。 であるのである。 であるのである。 であるのである。 であるのである。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	意記載 s/archi-recu s/archi-r	実験・実習・実習の授業師と連携した必と連携した必とと連携したの一ン 大人	・実技の授業時数 ②修の実験・ ②修の実験・ ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実はの単位 ・実践のの演習の単 にお専門を当該専門をはないで課	実習・実技の 授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技の 単位数 (専修学材 (専修学材)授業時数)単位数	第1号) 第第2号) 第第3号)	388	4 単位時間 0 単位時間 1 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等と連携を実施状かに記入)	■民間の ※有の場合 https://	、例 (について任 s.jp/course 算 うううう (定) うちな必を な企 変業等 様 変数と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 にいる教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 のみる のるか のるか のるか のるか のるか のるか のるか のる	意記載 s/archi-recu s/archi-r	実験・実習・実習の授業師と連携した必と連携した必とと連携したの一ン 大人	・実技の授業時数 ②修の実験・ ②修の実験・ ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実はの単位 ・実践のの演習の単 にお専門を当該専門をはないで課	実習・実技の 授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技の 単位数 (中修学杉 (専修学杉 (専修学杉)授業時数)単位数	第1号) 第第2号) 第第3号) 第第4号)	388	4 単位時間 0 単位時間 5 単位 単	
学校評価 当該学科のホージ URL 企業等の実施状かに記入) を実習を見いずれかに記入)	■民間の ※有の場合 https://	、例えば体: www.oct.ac z時間に業時数 な数単した単位数 のは、学者を必要となる のは、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	について任 s.jp/course 算 うううう (定) うちな必を な企 変業等 様 変数と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 にいる教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 のみる のるか のるか のるか のるか のるか のるか のるか のる	意記載 s/archi-recu s/archi-r	実験・実習・実習の授業師と連携した必と連携した必とと連携したの一ン 大人	・実技の授業時数 ②修の実験・ ②修の実験・ ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実はの単位 ・実践のの演習の単 にお専門を当該専門をはないで課	実習・実技の 授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技の 単位数 (中修学杉 (専修学杉 (専修学杉)授業時数)単位数	第1号) 第第2号) 第第3号) 第第4号)	388	4 単位時間 0 単位時間 1 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位	
学校評価 当該学科のホージ URL 企業等の実施状かに記入) を実習を見いずれかに記入)	■民間の ※有の場合 https://	、例 (について任 s.jp/course 算 うううう (定) うちな必を な企 変業等 様 変数と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 にいる教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 のみる のるか のるか のるか のるか のるか のるか のるか のる	意記載 s/archi-recu s/archi-r	実験・実習・実習の授業師と連携した必と連携した必とと連携したの一ン 大人	・実技の授業時数 ②修の実験・ ②修の実験・ ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実はの単位 ・実践のの演習の単 にお専門を当該専門をはないで課	実習・実技の 授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技の 単位数 (中修学杉 (専修学杉 (専修学杉)授業時数)単位数	第1号) 第第2号) 第第3号) 第第4号)	388	4 単位時間 0 単位時間 5 単位 単	
学校評価 当該学科のホージ URL 企業等の実施状かに記入) を実習を見いずれかに記入)	■民間の ※有の場合 https://	、例 辞価 www.oct.ac ac be with a construction ac be with a co	について任 s.jp/course 算 うううう (定) うちな必を な企 変業等 様 変数と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 で教と者 にいる教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 の教と者 のみる のるか のるか のるか のるか のるか のるか のるか のる	意記載 s/archi-recu s/archi-r	実験・実習・実習の授業師と連携した必と連携した必とと連携したの一ン 大人	・実技の授業時数 ②修の実験・ ②修の実験・ ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実技の単位 ・実はの単位 ・実践のの演習の単 にお専門を当該専門をはないで課	実習・実技の 授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技の 単位数 (中修学杉 (専修学杉 (専修学杉)授業時数)単位数	第1号) 第第2号) 第第3号) 第第4号)	388	4 単位時間 0 単位時間 5 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 人 1 人 0 人 3 人 0 人	
学校評価 当該学科のホージ URL 企業等の実施状かに記入) を実習を見いずれかに記入)	■民間の ※有の場合 https://	、例 辞価 が www.oct.ac b	について任 …jp/course 算 うううう (定) うちちを必 を企 企 企 企 企 企 を の を の を の を の の で で の の の の の の の の の の の の の	意記載 a/archi-recu b/a と連携した。 www. を連携した。 www. をを修すした。 www. をはている。 www. をはない。 www. www. www. www. www. www. www. ww	実験・実演響・実演響・実演とと連携したたんととたってという。 実演 しんしん という 大き はい	・実技の授業・・実技の授業・・・実技の授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実習・実技の 授業時数) 数 数 実習・実技の 位数) (専修学材 (専修学材 (専修学材	を設置基準第41条第1可 対設置基準第41条第1可 対設置基準第41条第1可 対設置基準第41条第1可 対設置基準第41条第1可 対設置基準第41条第1可	第1号) 第第1号) 第第3号) 第第3号) 第第3号)	384 (966 384 (1	4 単位時間 0 単位時間 1 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位	
学校評価 当該学科のホージ URL 企業等の実施状かに記入) を実習を見いずれかに記入)	■民間の ※有の場合 https://	、例 辞価 www.oct.ac a b b b b b b b b b b b b b b b b b b	について任任: .jp/course (意記載 a/archi-recu b/a と連携した。 www. を連携した。 www. をを修すした。 www. をはている。 www. をはない。 www. www. www. www. www. www. www. ww	実験・実習・実際・実際では、 大き では、 大き では、 大き では、 大き では、 大き では、 大き には、 たき にはい	・実技の授業・・実技の授業・・・実技の授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実習・実技の 授業時数) 数 数 実習・実技の 位数) (専修学材 (専修学材 (専修学材)授業時数)単位数	第1号) 第第1号) 第第3号) 第第3号) 第第3号)	384 (966 384 (1	4 単位時間 0 単位時間 5 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 人 1 人 0 人 3 人 0 人	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

各専攻分野の学生の就職先業界における人材の専門性に関する動向や国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い、 新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを十分に把握、分析した上で、大阪工業技術専門学校専門課程の教育を施すに ふさわしい教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)を行い、企業等の要請等を十分に活かしつつ 実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業と連携して実習、又は演習等の授業を行う際の職業実践専門課程の編成にあたり、実習又は演習等の授業の実施に加え、授業 内容や方法及び学生の学修成果の評価について審議する機関として大阪工業技術専門学校教育課程編成委員会を置く。教育課程 編成委員会で審議された授業等(案)は、教務委員会へ附議の後、運営会議で承認を得て採用となる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
	公益財団法人 竹中大工道具館 エグゼクティブ・アド バイザー・理事	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	1
児玉 哲也	一般社団法人 日本建築学会 近畿支部 事務局長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	2
倉田 哲郎	株式会社 アルファ建築設計事務所 上席部長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	3
	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 副 校長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	_
	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教 務課長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	_
吉田 裕彦	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 建築設計学科長(兼、企画開発局長, ロボット・機械学科長)	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	_
	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 進 路支援室長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月~10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年09月01日 10:00~12:00(令和5年度)

第2回 令和5年09月29日 14:00~16:00(令和5年度)

第1回 令和6年09月13日 10:00~12:00 (令和6年度)予定

第2回 令和6年10月11日 14:00~16:00 (令和6年度)予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

『生成AIに於いて言語化は重要であるが、その言語化が正確に出来ればできるほど本物に近いモノとなってしまい、そこには生産過程がなく空洞が出来てしまうので、出来上がった建築の空間を見て判断する力やセンスが重要だと思われる』と言う意見に対して、本校が提唱する「設計マインド」で示す学ぶ力(意欲)をベースにして、スキルとセンスをどう磨いて行くかを、更に時代に適応した内容で実践したいと考えている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。) の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、専門知識や技術の習得に加えて職業実践の場で必要とされる現場での企画力、マネジメントカ、コミュニケーションカ、プレゼンカ、営業力、会計力等の力(本校ではこれらを総称して「真の仕事力」とする)の育成を目指しています。原則、実習・演習等に於いては、積極的に企業等のプロフェッショナルの協力を得て授業内容や方法の設定、学生の学修成果の評価を行う。とりわけ、「真の仕事力」に関連する実践的かつ専門的な能力の評価については、企業等との連携によって行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等との連携は、主として設計製図、制作実習、また設計、制作のみならずビジネス実務、マネジメント等までをも含めた総合的な職業実践に関わる実習等において行う。その結果として、学修評価は各科目ごとの全授業日程終了後に、企業等から学校に対して評価表を以って成績の報告が行われ、それに基づき学校にて単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
設計製図 I		建築の計画から設計までの一連の基本手順を理解し、実行できることを目的とする。建築設計といっても図面を描くことだけでなく、①課題(与条件)の読解・分析、②現地調査、③過去の事例研究、④居心地・空間性の理解、⑤建築計画(機能)、⑥構造計画、⑦制作姿勢の自然化(身体化)、⑧プレゼンテーションの自然化(身体化)、⑨チーム運営など本質的な設計力を身につける。	WIZ ARCHITECTS
設計製図Ⅱ	1. 【校内】企業等からの 講師が全ての授業を主 担当		WIZ ARCHITECTS ピーエイチー級建築士事務所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

職業実践教育にかかる実務研修規程に基づき、実務研修計画書の作成に当たっては、組織的に位置付けられたもの、且つ計画的なものとするため、教務委員会において原案を作成・審議の後、運営会議の承認を得るものとしている。その上で、専門分野の知識・技術の進歩、制度の変更、仕事に対する価値観の変化等、業界内外の動向をいち早く理解・分析し、それを教育内容や方法に反映させるための組織的な研修・研究を教員に対して行う。また同研修・研究において、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目指す。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開 連携企業等: (一社)防災学術連携帯、他

期間: 令和5年4月11日(火) 対象: 建築系学科教員

カロ 気候変動がもたらす災害リスク、避難・救命救助などの防災対応、国土利用・まちづくりなど災害対策についての取

内容 組

研修名: グリーンリカバリーと環境工学 連携企業等: 日本学術会議 土木工学・建築学委員会

期間: 令和5年5月30日(火) 対象: 建築系学科教員

内容 COVID-19からの復興と環境工学の役割~建築物における感染症対策と温暖化対策の両立

研修名: ZEBを実現した先導的な取組み 連携企業等: (公社)空気調和・衛生工学会

期間: 令和5年6月23日(金) 対象: 建築系学科教員

内容 庁舎及びオフィスビルの事例に関して、計画の概要とZEBを実現した先導的な取組み

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 令和5年度新任教員研修 連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会

期間: 令和5年8月1日(火)~8日(火) 対象: 新専任教員

内容教育メソッドを活用した教育実践、他

研修名: 教育DX・データ利活用の現状と今後 連携企業等: EDIX実行委員会

期間: 令和5年5月11日(木) 対象:全専任教員

内容デジタル学習環境が定着しつつある中での、教育DXとデータ利活用の現状や課題、今後のポイントについて

研修名: ICT+教育 最前線2023 連携企業等: 三谷商事(株)

期間: 令和5年7月21日(金) 対象: 全専任教員

内容 情報科的ICT教育の捉え方、他

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 脱炭素・ウェルネス等、複雑化する課題に応える建築設備 連携企業等: (公社)空気調和・衛生工学会

期間: 令和6年6月21日(金) 対象: 建築系学科教員

内容 海外におけるカーボンニュートラル動向、他

研修名: ミスト利用の課題と展望 連携企業等: (公社)空気調和・衛生工学会

期間: 令和6年9月20日(金) 対象: 建築系学科教員

内容 ミストが創る潤いのある生活空間、他

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 令和6年度新任教員研修 連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会

期間: 令和6年7月26日(金)~8月6日(火) 対象: 新専任教員

内容教育メソッドを活用した教育実践、他

研修名: 教育の「今」と「未来」を考える 連携企業等: EDIX実行委員会

期間: 令和6年5月9日(木)~10日(金) 対象: 全専任教員

内容 我が国の教育の情報化の最新動向、他

研修名: 心に病を持つ学生への対応 連携企業等: 医療法人クリニック

期間: 令和6年9月12日(木) 対象:全専任教員

内容 青年期に発症しやすい精神疾患、他

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校の教育活動、その他の学校運営の状況について、自己点検評価を行うと共に、企業等の役職員等からなる「学校関係者評価委員会」に自己点検評価の結果を評価していただく。また、その結果をホームページ等で広く社会に公表すると共に、今後の教育活動及びその他の学校運営に活かすことをその目的、方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	学校の将来構想を描き、3~5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか
(2)学校運営	業務効率化を図る情報システム化がなされているか(DX化)
(3)教育活動	教育活動(授業体制・カリキュラム・教授力等)の変革について
(4)学修成果	就職に関する目標/資格取得に関する目標/退学率について
(5)学生支援	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は適正に行われているか 入試選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか

(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか
(9)法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と適正な運営について
	企業・団体、地域との連携について 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献について
(11)国際交流	留学生の受入れ等の戦略的な国際交流について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

総評として、事業計画に基づき全学的に推進する教育のICT化に向けた『電子黒板』でのデジタル教材データの有効的な活用や予習復習などの学習機能を持たせた『授業支援システム』、併せてGoogleアプリを利用することで、授業が効率良くなると共に活発化し、学生の理解度が高まってきている様子が分かった。また、当該学科に対しては『仕事とも繋がっていくBIMや生成AIを如何に活用するかが課題である』と言う意見が出された。これを受けて、慎重かつ速やかに今後の検討事項として取り組んで行く。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
松山 義広	奈良県立奈良南高等学校 副校長	令和5年年4月1日~令 和7年3月31日(2年)	高校教員
延安 浩二		令和5年年4月1日~令 和7年3月31日(2年)	企業等委員
河野 正道		令和5年年4月1日~令 和7年3月31日(2年)	企業等委員
村野 智子		令和5年年4月1日~令 和7年3月31日(2年)	卒業生

- ※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
- (例)企業等委員、PTA、卒業生等

URL:

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

((ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/gakkoukannkeishahyouka.pdf

))

公表時期: 令和5年9月25日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し大阪工業技術専門学校の教育活動、その他の学校運営の状況に関する情報≪「専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン」で掲げられた項目-学校の概要、目標計画、各学科の教育、キャリア教育、学生の修学支援、教職員等≫をホームページを通じて恒常的に情報提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要(沿革等)、学校の目標及び計画
(2)各学科等の教育	学校の教育方針、各学科の教育目的・カリキュラム編成、及び学生数等
(3)教職員	各学科の担当教員数(専任・非常勤講師)、他
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、及び就職支援等への取組
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組、及び部活動等の状況
(6)学生の生活支援	学生支援の方針、及び取組状況
(7)学生納付金·修学支援	各種就学支援制度 ※学生納付金等は(2-②)項目で記載
(8)学校の財務	学園の財務状況
(9)学校評価	自己点検評価、及び学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。 (3)情報提供方法

(ホームペー ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: $https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/R6_zyouhouteikyou.pdf$

令和6年8月23日 公表時期:

授業科目等の概要

必修	択				百百	授		12	受業方法		場	171	教	只	企
	択				当		単			実験					業
修		自由	授業科目名	授業科目概要	年次	業	位	講	演		校	校	専	兼	等と
	必修	選択			· 学 期	時数	数	義	習	技実習・	内	外	任	任	の連携
1 0			設計製図 I	建築の計画から設計までの一連の基本手順を理解し、実行できることを目的とする。建築設計といっても図面を描くことだけでな く、①課題(与条件)の読解・分析、②現地調査、③過去の事例研究、④磨心地・空間性の理解、⑤建築計画 (機能) ・⑥構造計画、⑦制作姿勢の自然化(身体化)、⑧ブレゼンテーションの自然化(身体化)、⑨チーム運営など本質的な設計力を身につけ	1通	192	6)	0		0	0	0
2 0			建築製図I	⑤。 業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・誘図能力を養成する。各タームにおいて作業項目を明確に設定 し、その成果を自己設定することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく、前期については、製図規則の理解からスタート、平屋設て住宅から2階建て住宅まで、課せられた条件のもとで計画・設計を行い選集→段図面の作図までを行う。後期については、木港2階建住宅及びRO造会共建築物の建設設計製図について学ぶ。また、実例にこれらと向き合う作業を通じて、技術者にて、、本港・2階建に本及びRO造会共建築物の建設設計製図について学ぶ。また、実例にこれらと向き合う作業を通じて、技術者に	1通	128	4			0	0			0	
3 0			C A D設計製図 I	求められる集中力や想像力なども同時に養成する。 今日、RDIはかつての手描きに製図に代わり一般的な製図道果となっている。本科目では、CADによる設計製図を通して、基本練 暫を中心として基本物な建築図面の作成までを課題を通して学んでもらうと共に、CADの基本操作についても習得してもらう。 AutoCADを中心に実習を進める。	1後	64	2			0	0			0	
4 0			設計実習 I	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各膜程を、身近な題材を元にした設 計課題を楽して学ぶ、そのなかで観楽業界のあらゆる職種で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成する ことを目的とする。と同時に作品を作っていく課程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積 極性を育む、設計製図1を補完する内容であり、特別講義による実務の理解と含む。	1通	128	4			0	0		0	0	
5	0		構造力学基礎	建築には業柄的な面と工学的な面があり、ものづくりや基柄的側面に憧れて建築の選へ踏み込んだ人は多いことでしょう。しかし 建築は人間の生活の場であり、同時に安全で快通であることが要求されます。そこで工学的に解決しなければならない問題が数多 く存在し、中でも構造設計分野ではその基礎となる構造力学の知識が重要となります。この講義では、理覧系を苦手とする人にも 構造力学が開発できるよう、深管を交えながら初かの初歩がら解覚します。	1前	32	2	0			0		0		
6	0		図学	建築技術者としての観察力、描写力、表現力を身につけ、発想力や構成力を高めると共に、基本的な図法等について学ぶ。	1前	32	2	0			0		0		
7	0		福祉住環境概論	今や全人口の4人に1人が65歳以上という超高齢社会となった日本において"誰もが安心して暮らせる住まい"についての基本的な知識を習得しておくこと、またその提案や設計が出来ることは非常に重要です。この漢庫では、建築に関することはもちろん、医療・指針に関しても体系的で値ない知識を与していすることで、ケアマネシャーなど各種専門地と連携をとしながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示したり、福祉用具や諸語策情報などについてもアドバイス可能な専門知識の習得を目指します。	1前	32	2	0			0			0	
8	0		意匠設計特論	建築の計画から設計までの一連の基本手順を理解し、実行できることを目的とする。建築設計といっても図面を描くことだけでな く、①課題(与条件)の誘揮・分析、②現地協強、③適点の事例研究、④商心地・空間性の理解、⑤建設計画(機能)、⑥構造計 画、③動作姿勢の自然化(身体化)、⑥ブルビケーションの自然化(身体化)、例テーム連窓とと表質的な影から身につけ る。設計製図1・設計運営・の表現を記しています。連築設計と目指す学生を対象とし、実質や見学を通して課題に取り 組み、爰仮設計書紙に必要な起解力・計画が、表現力などを要うことを目標とする。	1後	32	2	0	Δ		0		0	0	
9	0		構造設計特論	各種構造(木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造等)の構造計画法および構造設計法について学び、構造計画と共に、各種構造の部材断面の考え方、 設計法にまで掘り下げて構造技術者の基本となる考え方等について学ぶ。	1後	32	2	0			0		0		
10	0		建築概論	日本の木造建築設計の本質を基礎から丁寧に学びます。 910×1820ミリのグリットと勾配屋根で構成される日本の木造建築の考え方や意味の習得をめざします。	1後	32	2	0			0			0	
11	0		建築計画 I	建築というものは人間のための空間です。その空間を創造するには「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければなりません。また、建築空間は、「機能性」「安全性」「社会性」「遺形性」を含めた総合的遺形物として創造していかなければなりません。この満義では、建築計画の概略(総論)から、身近な「住宅"を例に「計画」の基本的な考え方を身につけることを前提に、それぞれの学科の特色を活わしながら、建築計画の業庫と夢安本経知識を考しまり、	1前	32	2	0			0			0	
12	0		建築計画Ⅱ	この授業では、建築計画Iで学んだ「総論」及び「住居施設の計画」についての要点を振り返りながら建築計画の [各論] から、 学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設の機能・用途をその実例と演習問題を交えながら、「外部空間の計画」 も含め、具体的かつ、総合的な計画手法と基礎的な認識を学びます。	1後	32	2	0			0		0		
13	0		建築史 I	本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切 と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講で はそれを西洋建築・日本建築を通じて行う。	1前	32	2	0			0		0		
14	0		建築史Ⅱ	本講は、単なる建築史知識の暗紀が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切 と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。 本講で はそれを近代建築を通じて行う。	1後	32	2	0			0		0		
15	0		建築法規I	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない 諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例	1前	32	2	0			0		0		
16	0		建築法規Ⅱ	<u> </u>	1後	32	2	0			0		0		
17	0		建築一般構造Ⅰ	を交えて学習する。 この科目は建築を学ぶ上での基礎的な科目であり、できるだけ多くの建築用語を知り、その内容の理解を目指す。最初は「建築物 とは、から入り、先盤の基礎知識を学び、次に木構造の構成方法(在来工法)を学び、後の設計や施工に必要な知識を習得する。 また、地球環境面から解体や速速度楽物の問題についても考える。	1前	32	2	0			0		0		
18	0		建築一般構造Ⅱ	この科目では鉄骨構造と鉄筋コンクリート構造と構強コンクリート構造について学ぶ。今日の建築の多くはこれらの構造で造られ ており、その仕組みや特性についてよご解除し、その知識を血肉とすることは建築人として必須である。近年、良い建築を長く使 いたいという社会的な要求が高まっており、新しい知見も取り入れながら講義を進める。	1後	32	2	0			0		0		
19	0		構造力学Ⅰ	建築の一分野に「構造設計」がある。それは、建築物を支えている骨組の設計や地震等に対して安全かどうかの検討を行うもので ある。構造力学 I ではその構造設計に到達するまでの前段階、つまり建築物に作用する力とは何か、また力をどのように扱うかと いう基礎理論から、静定構造物の解析が法すでき学が、この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っ ておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。	1前	32	2	0			0			0	
20	0		構造力学Ⅱ	構造力学IIでは材料力学や断面形状による力学的性質の違いを理解し、構造力学IIで学んだ内容を基に、特定構造物の応力解析から各部材の許容応力度設計までを理解する。さらに後半では、簡単な不特定構造物を例にして、その解析方法の基本を学ぶ。この後実では、実際技術者の策談として関いておかなければならない構造力学の基礎の習得を必ざっ、使実体では、実際技術者の策談として関いておかなければならない構造力学の基礎の習得を必ざっ	1後	32	2	0			0			0	
21	0		情報処理論	建築技術者でも、ITリテラシーは必修条件となっている近年、建築業界においても例外ではなくコンピュータ化が進んでいる。情 報処理の基礎として、進もがパソコンを触れることが大切である。また最近では、アプリケーション等の利用も進んでいることよ リ使用法等についても学ぶ。	1前	32	2	0	Δ		0			0	
22	0		建築施工法 I	建築施工とは、工事契約に基づいて各種建築図面や仕様書に従って工事を行い、建築物を完成させることを言います。この建築施 工法 I の講義では、建築施工における基本的な用語や施工方法などを系統的に学習し、建築技術者として最優限知っておくべき施 工知識を学びます。また、2 年次の施工法を学ぶ上での土台となるべき知識や能力を身に付けることを目的とします。	1後	32	2	0			0		0		
23	0		キャリアデザイン I	①業界における仕事力を高めるべく、業界の構成、仕組み、役割、仕事の内容、立ち位置などを知り、目指す方向性を見出すため の知識と音得する。次に、実際の段職活動を改定した履歴書作成、両接収集等のトレーニングを重ねる。(必能振動のみならず社 会人としても基準プの健康父母版では不可欠である。国話、数学を主とした中学校、高等学校レイルの基礎学力向上を図る。	1通	64	2	0			0		0		
24 0			設計製図Ⅱ	設計製図1で①課題(与条件)の誘解・分析、②現地調査、③過去の事例研究、④磨心地・空間性の理解、⑤建築計画(機能)、 ⑥構造計画、⑦制作姿勢の自然化、身体化)、⑥ブレゼンテーションの自然化(身体化)など玄質的な設計力を身につける。事務 所どル、集合性率、図書館、特殊を実践に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化を通して、各種 建築の概要と一連の設計工程を理解する。	2通	192	6			0	0		0	0	0
25 0			建築製図Ⅱ	建築業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各タームにおいて作業項目を明確に設 定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、課せるれた諸条件のもと 終防コングリート構造の 保護半等所だいの計画・設計を行い、実施・設定・保護・保護の中ではないできない。後期につい ては、鉄青造 4 階線で建築物の計画・設計を行い、一般図から構造図等の作図を行う。同時に、真剣に設計作業や図面と向き合う 作業を造じて、批析者に求められる集中力や想像力などを養成する。	2通	128	4			0	0		0	0	
26 0			CAD設計製図Ⅱ	近年、建築業界でもあらゆる分野で、コンピュータ化が進んできており設計関係においても一般的な製図道具となって来ているの が現状である。本料目では、CADによる設計製図を通して、基本練習を中心として基本的な建築図面の作成までを課題を通して 学がでもらう。CADの基本操作については1年次後期のCAD設計製図Iにおいて皆得済みより、応用も素ねた使用法についても 学ぶ、JW-CADを中心に実習を進める。	2前	64	2			0	0			0	
27 0			設計実習Ⅱ	建築設計製図の一連の流れである。問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各膜程を、身近な題材を元にした設 計謀題を選して学ぶ、そのなかで建築業界のあらゆる職種で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成する ことを目的セラさ。と同時に作品を作ってい、貨程を通じて、モノづくりの魅力を休めし、社会で自己実現をなし得る主体性、積 極性を育む。設計製図Ⅱを補完する内容であり、特別講義による実務の理解も含む。	2前	64	2			0	0		0	0	
28 0			卒業制作	建築設計学科では、卒業制作をPDP (パーソナルデザインプログラム)として実施している。建築系の卒業制作では、設計課題を自 ら設定し、コンセプトを立て、課題解決、推案・プレゼンをすることが一般的であるが、PDPでは自分の過去・現在・未来をデザイ ンすることを主要な目的としている。つまり 課題のための課題、ではなく、自身のこれまでのデザやキャリアをふりかえり、現 在の建築の学びを踏まえて何楽のキャリアイメージを設定し、課題を設定し取り組むこととなる。	2後	(64	2			0	0		0	0	
29	0		意匠設計 I	課題(住宅・公共建築)について、現地調査から、模型・プレゼンテーション・発表までの一連の流れを実務に対応させながらまと めて行きます。途中に関連作品の見学・レクチャーも取り入れ、リアリティーのある授業を行います。	2前	64	2			0	0		0	0	
30	0		意匠設計 II a	意匠設計特論分野の卒業制作作製を目的とする。テーマ選択、資料収集、エスキス、製図、模型作成などの作業をゼミ形式で進める。	2後	64	2			0	0		0	0	
31	0		意匠設計 II b	意匠設計特論分野の卒業制作作製を目的とする。テーマ選択、資料収集、エスキス、製図、模型作成などの作業をゼミ形式で進める。	2後	64	2			0	0		0	0	<u> </u>
32	0		構造設計I	材料実験とは違った面から、構造物の強度等について焦点をあて実証し、実験を通じて理解を認めてもらうことを目標とする。また、各自でフレームだけを自作しフレーム強度と実際自分室で解析した計算結果との比較を行い、力と部材の使われ方、構造デザインについて学んでもらう。また、構造事攻コース最終科目より現代の建築から見るデザイン、耐震設計法を学ぶ。	2前	64	2			0	0			0	
33	0		構造設計Ⅱ a	①自分自身で問題設定をすること。②建築の企画・計画・設計を自分で行うこと。③制作したものを提案・プレゼンテーションすることを前提をし、構造計画、構造設計、構造計算といった形で構造専攻としての研究をおこなう。また講師の指導の下、構造の領域において先進的な課題に取り組むこともできる。	2後	64	2			0	0			0	
34	0		構造設計Ⅱb	①自分自身で問題設定をすること。②雑薬の企画・計画・設計を自分で行うこと。③制作したものを提来・プレゼンテーションすることを前提とし、精査計画、構造設計、構造は背よいった形で構造専攻としての研究をおこなう。また講師の指導の下、構造の 領域において先進的な課題に取り組むこともできる。	2後	64	2			0	0			0	

35	0		CAD設計製図Ⅲ	BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)は、建築生産のあり方を大きく変えるものといえ、建築業界においてその 普及が進んでいる。設計から施工・維持までの情報を一貫して管理でき、ビジュアルを使って推にでもわかりやすく情報を失有で きるツールです。ACMCHAD BIMを選してBIMの思想と操作方法を理解することを目的とする。特に3D表現ツールとしての活用を中心にその操作方法を修得することを目的とする。	044	64	2		0	0			0	
36	0		建築計画Ⅲ	建築の計画・設計に深く関係しているランドスケーブデザインの概要を学びます。前半では主なランドスケープデザインの歴史や 設計プロセスに関して、中盤から幾半へかけては、卒業制作など利害・設計に活かしやずいよう。ランドスケープデザインを構 成する要素やテーマごとの講義となります。また座学だけでなく学校周辺見学も行い、実際のまちを構成する要素や状況を体感で きる講義となります。	2後	32	2	0		0			0	
37	0		建築構造学	木質構造、鉄筋コンクリート構造についての、部材設計法にまで掘り下げて構造技術者の基本となる考え方等について学び、簡単 な建物の構造計算書の作成もおこなうものとする。	2前	32	2	0		0			0	
38	0		建築士試験講座 I	この講義では、一年次に学んできた建築計画・建築法規分野について、2 級建築士資格試験(学科)で過去に出題された問題解説 と演習をとおして復習を行い、その学びを確実なものとし試験に対応できる力を身につけることを目的とする。	2前	32	2	0		0		0		
39	0		建築士試験講座Ⅱ	この講義では、一年次に学んできた建築構造・建築施工分野について、2級建築士資格試験(学科)で過去に出題された問題解説 と演習をとおして復習を行い、その学びを確実なものとし試験に対応できる力を身につけることを目的とする。	2後	32	2	0		0			0	
40	0		建築環境工学	この授業では、望ましい室内環境を形成するための知識を得て、さらに地球環境と省エネルギーについての理解を目標としている。環境についての議論は、今や1地球の存続しいう命器になりつつあり、全世界で排出される二酸化炭素の1/3が建築関連業であるともいわれ、その削減に対して妻なが果たす控制は日々大きくなっていると言える。「建築環境工学」という科目は、従来の建築のあり方を見直し、今後の方法を模束してゆく基礎を築くものであると考えている。	2前	32	2	0		0			0	
41	0			人間の生活に不可欠な空気、水、電気について学ぶ、主として木造住宅やマンション等の集合住宅や事務所ビルを対象として、快 適な居住境境を創造さるための諸後側(空気調和設備、給排水・衛生設備、電気・ガス設備等)について学習する。また、建築設 計と設備計画との問題についても言及する。	2後	32	2	0		0			0	
42	0		建築材料学 I	この科目は、まず前半に日本の代表的・伝統的建築材料である木材について学び、後半に現代建築における主要な建築材料である コンクリートについて学ぶ。この二つを学ぶことにより建築材料による建築の歴史及び可能性を学ぶ。	2前	32	2	0		0			0	
43	0		建築材料学Ⅱ	建築材料 I の続きとしてここでは出来るだけ多くの材料を取り上げていく。まずは金属製品、特に構造用鋼材の形鋼や棒鋼につい て学び及にアルミサッシ等その特徴を知る。次に仕上げ材を分類別にガラス、セラミックス、石材と学び、機能材料などを学んだ 後、リフォームについて学び材が成皮が打こついて考える。	2後	32	2	0		0			0	
44	0			1年次で学んだ建築施工法 I を基にして、建築材料学、一般構造、法規、構造力学等の知識を統合し、深く施工技術を学ぶ教科である。最近では現場での改善で成員がすみ新工法が徴多く有難されているが、この教科では、将来、経験や知識を積み重ねていくために必要な施工知識を得ようとする要数を得ることを目標とする。	2前	32	2	0		0			0	
45	0	•	建築積算	建築物の実現は予算の確立がなければ不可能であり、実社会でもコストに対する重要性が認識され、その関心も高まっている。建 築における積算の位置づけを考察しつつ、実際の建築工事にかかわる設計図書から工事費等を予測する積算の技術を修得する。	2100	32	2	0		0			0	
46	0		キャリアデザイン Ⅱ	1年次に勝乏就職活動対策、社会人としての基礎学力管得を目的としたトレーニングを重ねることに加え、社会人マナーや常識など他人とでの基本となる考え方、如誠、所作を習得、具体的には、就難対策では面接(個人、集団)、グループスカッション、プレゼンテーション、論作文、SPIへの対応方法を学び、基礎学力では1年次の国語、数学に加え、英語、理料にまで分野を広げる	0.28	64	2	0		0		0		
		合計		46	科	·B			2240		単	位時間	1 (100	単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等				
卒業要件: 1年次・2年次の必修科目合計32単位の履修合格を含め、選択必修科目・自由選択科目から履修合計した単位との総合計が78単位以上であること。	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法: 原則、分野別の選択必修科目を除き全科目を履修すること。	1 学期の授業期間	16 週			

(留意事項)
- の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。